

2009 年 8 月 30 日 講義 4

講義タイトル：Conservation of Biodiversity in Cameroon: An Overview

講師：Evariste Fognozossy

キーワード：生物多様性、保護、開発、政策、環境マネジメント

要約

カメルーンは気候、景観、土壌、文化といずれの面でも変化に富んでおり、しばしばミニ・アフリカと称される。熱帯林から砂漠に至るまで、アフリカに存在する生態系の 9 割を有し、豊かな生物多様性を誇っている。そこから得られる豊富な資源は、食用としての利用はもちろん、薬や建材としても用いられ、その利用価値は非常に高いといえる。特に材木は国の収入源のかなりの部分を占めており雇用の創出にも貢献している。

その保護活動をいかに進めていくかが今後の課題といえる。現在カメルーンでは国内外の組織が保護活動を推進している。国内の活動としては例えば ANAFOR があり、これは WWF や MTN 基金も連携した植林活動である。

今後もこうした活動の継続と、生物多様性のさらなる調査が保護と持続可能な開発を進めるにあたって必要となる。また、政策の再考や、自然に対するマネジメントスキルの向上、エコ・ツーリズムの導入もあわせて考えるべきである。

(報告者：田中、今中、川中、佐久間、早坂)